

第三章 つながりたい

コーディネーター

- ・CSマイスター（福岡教育大学教職員大学院 教授） 森 保之 氏

質問回答者（第二章発表者）

- ・大石田町立大石田中学校 校長 本多 諭 氏
- ・八王子市立松木中学校学校運営協議会
松木中学校区3校合同学校運営協議会 会長 金山 滋美 氏
- ・戸田市教育委員会 学務課長 武藤 昌博 氏
- ・戸田市立新曽小学校 校長 上原 和代 氏
- ・岐阜県立吉城高等学校 校長 鈴木 健 氏
- ・山口県下関市王司&清末まちづくり
下関市立清末小学校 教諭 松本 学 氏

小中学生 VTR

- 「つながる」と聞いて、思い浮かぶイメージ（中学生）
 - ・SNS。身近な人ともつながるけど、（良くも悪くも）知らない人ともつながる
 - ・伝統が繋がらないと、地域のつながりも失われる
- 将来の夢、つながりたいこと

「子供たちに対して、私たち大人がどんなつながりを作っていけばいいのか」

(Q1) 学校と地域の連携・協働による活動を実施する際に、それを行う“意味”を「子供」・「保護者」・「地域の人々」に、どのように説明しているか

- (子供へ) 感謝、という言葉 키워ドにしている。
- (教職員へ) 地域の熱意を先生に伝えたいという思いで説明している。また、地域の多様な力を借りて教育を行うことの重要性を伝える。
- (地域へ) ボランティアとして何をしてもらおうか、教育活動にはめあてがあることや授業における地域の役割を明確にし、丁寧に説明している。
- (地域へ) 子供たちの育ちに地域の方々の力が大きく作用していることを、地域コーディネーターを核に、民生委員会や区長会など、様々な場面で説明している。



(Q2) 登壇者の皆さんは、人と人とを繋ぐだけでなく、「思い」や「姿勢」などについても、現在進行形で繋がれていると思いますが、様々な活動が続ける中で、「気づいたこと」や「気づかされたこと」(思わぬ効果があった、思わぬつながりが生まれたなどの具体的な話)を教えてください。

- ・産官学民連携による授業や活動を行うようになって、子供の目の輝きが違う。また、教員の意識変容が起こる。
- ・それぞれの人が、どんな考えを持って動いているのかを認識して動くことが大切と気づいた。
- ・校長と一緒に、継続して地域の会議に挨拶に行くようにしていたら、徐々に理解され始めた。

(Q3) 様々な活動を行う中で、つなぎたいと思っても、「人がいない」「後継者がいない」「忙しくなる」などの悩みを実践されている方からよく聞く。これに対して、何か打開策へのヒントはないか(具体的手法・エピソード等)

- ・同じ年代の人が活躍していることを伝える。写真とともにその人の願いや想いも一緒に掲載することが大事。
- ・教員は忙しくなっているのも事実だが、負担感はなく充実している。これから必要な力を育てるには今の教育では難しく、新しい学びが必要と先生たちに伝えている。
- ・子供の変容を明らかにすることが大事になってくる。
- ・教育委員会として、学校の思いと企業とのマッチングを行い、学校のニーズに応えるような動きが必要
- ・教育委員会と学校のつながりは重要、教育委員会による支援、共に進むことが大事。学校・家庭・地域・教育委員会の四者がともに子供の育ちに責任と役割を持つこと。
- ・学校に行くことが楽しいということを、ボランティアの方々から他の人に伝えてもらうこと。ボランティアがボランティアを呼ぶ。
- ・人がいないと思ったことはない。探せば必ずいる。また、メディア等を活用して活動を積極的に発信することが大事
- ・保護者は、(子育てと仕事の両立で)大変だが、自身の学びの経験から、保護者が育ち、たくさんの保護者が学校サポーターとして学級に入り、自分の学校ではないところでも子どもや先生を支えている。

「『つなぎたい』と思っている今がチャンス」

「自身が『つなぐ人』になることが重要」

